

リサイクルが本格化する中国車載電池

◆リチウムイオン電池（LIB）メーカーの優勝劣敗が進む

中国・寧徳時代新能源科技（CATL）は2018年6月、深圳証券取引所の新興企業向け市場「創業板」に上場した。CATLはTDK傘下から11年に分離独立したリチウムイオン電池（LIB）メーカーで、17年に出荷量でパナソニックを凌駕した。中国大手自動車メーカーを主要顧客にもち、日系メーカーとは中国・東風汽車と合併する日産やホンダとの関係を深めており、5月には横浜に拠点を設けた。米GMや独BMWの中国合併とも、7～9月に戦略提携協定を交わしている。

ただ、LIB業界全体では、業容を急拡大したものの資金繰りで経営が行き詰まる例も散見される。中国LIBメーカーは15年に約150社あったが、すでに1/3が淘汰されており、19年はさらに優勝劣敗が進みそうだ。

三元系			リン酸鉄		
寧徳時代	6,848	上汽、奇瑞、東風、北汽	寧徳時代	4,892	宇通客車、厦門金旅
比亞迪BYD	3,915	BYD	比亞迪BYD	2,997	BYD、広汽BYD
孚能科技	1,301	北汽、江鈴、長城、長安	国軒高科	1,158	江淮、広通客車、安凱
力神	704	江淮、長安、力帆、華晨	億緯鋰能	540	南京金龍、亜星客車
比克電池	696	海馬、江淮、吉利、南京	国能電池	399	奇瑞商用車、舒馳客車

(資料) 電子発焼友網 (2018年11月1日)、原資料は高工産業研究院

◆車載電池の回収利用・リサイクルについて取り組みが本格化

一方、18年8月に「新エネルギー自動車（NEV）動力蓄電池の回収利用管理に関する暫定弁法」が施行された。上海など17地区が電池回収利用の試験区と指定され、中国鉄塔を中核企業として20年まで試行プロジェクトが展開される。

中国通信キャリア3社などの出資により設立された中国鉄塔は、携帯電話の基地局を運営しており、使用済み車載電池を基地局の蓄電池として再利用している。中国鉄塔は11月、BYDや国軒高科、沃特瑪などとパートナー協定を結んでいる。

20年には使用済みの車載電池は約30GWhにのぼり、電池リサイクルの市場規模は2,500億円程度とも見込まれている。蓄電池としての再利用のほか、リサイクルによるコバルトなどの資源回収への期待も高い。日系企業では、阪和興業がCATLやリサイクル大手・格林美などとの連携に動いている。

【長谷川雅史】